

有機栽培に適する茶品種「あさのか」の整せん枝を活用した 網もち病発生低減技術

脇野 早織・赤川 博文¹⁾・内村 浩二

鹿児島県農業開発総合センター茶業部・¹⁾鹿児島県農政課

1. はじめに

鹿児島県が育成した茶品種である「あさのか」はチャノミドリヒメヨコバイなどの加害による収量低下が少なく、炭疽病や輪斑病に抵抗性を有することから、有機栽培に適した品種である。一方、発病後の対応が困難な網もち病には極めて弱く、常発ほ場では銅水和剤による防除が必須である。

網もち病は、生育中の新葉（上位3葉目くらいまで）から感染し、当県では秋芽生育期の発生が多く、この時期に高温多湿条件が続くと多発生となる。秋期に多発した園では翌年の一番茶収量が大きく減収する（写真1）。

当県の有機茶栽培では、二番茶摘採後の6月中旬に摘採面から10～20cmの深さでせん枝する深刈り更新を行い、その後出てきた再生芽を8月上旬に整枝する方法が広く行われている。この更新体系は、8月下旬以降の網もち病の感染時期と整枝後の秋芽生育時期が重なることから、網もち病感染・多発のリスクが高くなる。

「あさのか」は炭疽病に抵抗性を有することから、

炭疽病の発生低減を目的とした二番茶後深刈りの必要性は「やぶきた」に比べ低いと考えられる。

そこで、二番茶摘採後の整せん枝処理の違いが網もち病の発生程度に及ぼす影響について2017年から2021年にかけて検討したので、その概要を報告する。

2. 網もち病発生低減のための整せん枝方法

二番茶後に深刈りし、8月上旬に整枝した場合、無防除では多発生または甚発生であった。一方、二番茶後に整せん枝処理を行わず、7月上旬に三番茶を摘採した場合や、二番茶後に浅刈りし、7月下旬に三番茶を摘採した場合は無防除でも中発生に抑えられた（表1、2）。

網もち病感染時期である8月下旬頃までに秋芽を硬化させることで、新芽からの感染を抑え、網もち病の発生を低減すると考えられた（図1）。

秋芽生育時期に銅水和剤で防除を行った場合は、いずれの整せん枝処理でも少発生であった（表2）

また、二番茶後に深刈りした後、秋整枝まで放任した

表1 二番茶後の整せん枝処理と網もち病発生程度（2018年）

二番茶後の整せん枝処理	秋芽防除	病葉数 (枚/m ²)	発生程度
深刈り－8月上旬整枝		640	多
浅刈り－7月下旬摘採	なし	178	中
せん枝なし－7月上旬摘採		59	中

- 1) 二番茶後更新 2018年6月14日
三番茶摘採 2018年7月9、24日
8月整枝 2018年8月10日
秋整枝 2018年10月18日
病葉数調査 2018年11月13日

2) 網もち病の発生程度は日本植物防疫協会の発生状況基準に準じた（1 m²当たりの病葉数、0：無、1～50：少、51～300：中、301～1000：多、1001以上：甚）。表2も同様。

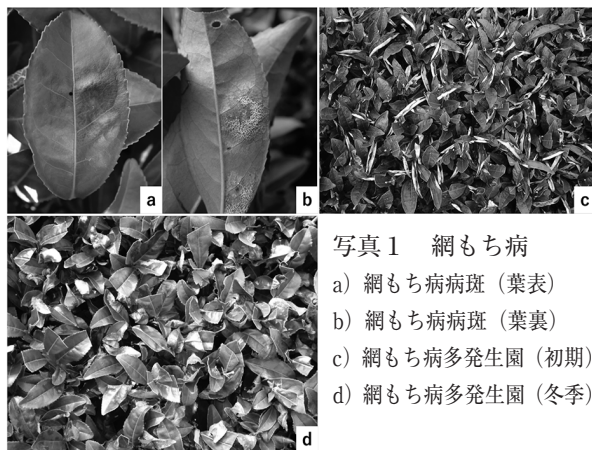


写真1 網もち病
a) 網もち病病斑（葉表）
b) 網もち病病斑（葉裏）
c) 網もち病多発生園（初期）
d) 網もち病多発生園（冬季）

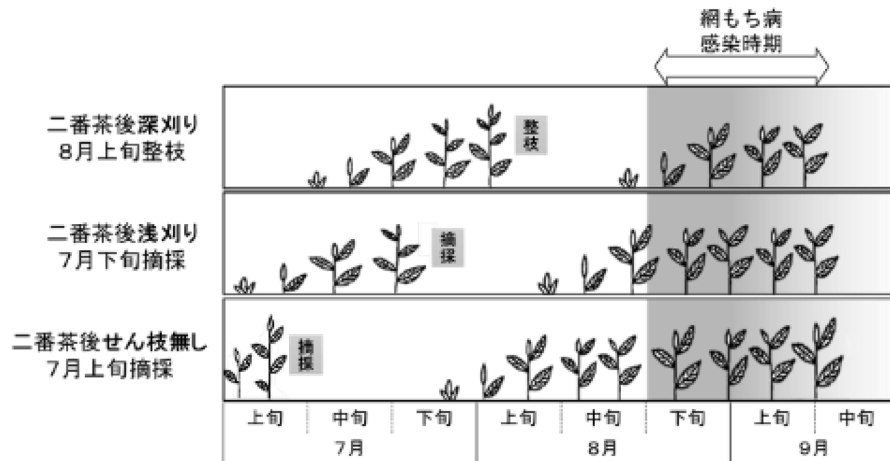


図1 二番茶後の整せん枝処理と新芽生育期間の関係

「二番茶後深刈り—8月上旬整枝（図上段）」の処理では、秋芽の新芽生育期が網もち病感染時期と重なるため感染のリスクが高い。一方、「二番茶後浅刈り—7月下旬摘採（図中段）」や「二番茶後せん枝なし—7月上旬摘採（図下段）」の処理では、網もち病感染時期までに新芽生育が終了しているため感染を抑えることが可能。

表2 秋期の網もち病発生程度と翌年一番茶収(2020-2021年)

二番茶後の整せん枝処理	秋芽防除	病葉数 (枚/㎡)	発生程度	一番茶収量 (kg/10a)
深刈り—8月上旬整枝	あり	20	少	653
	なし	1414	甚	261
浅刈り—7月下旬摘採	あり	35	少	765
	なし	264	中	650
(参考) 深刈り—秋まで放任	あり	13	少	649
	なし	35	少	615

- 1) 二番茶後更新 2020年 6月26日
 三番茶摘採 2020年 7月29日
 8月整枝 2020年 8月 5日
 秋整枝 2020年10月14日
 病葉数調査 2020年11月17日
 一番茶摘採 2021年 4月16日
- 2) 秋芽防除は塩基性硫酸銅水和剤（銅として32%）400倍を各試験区の秋芽1葉期および3葉期の2回、10a当たり200L 散布。

場合は、秋芽防除の有無にかかわらず少発生であった。

3. 翌年の一番茶収量への影響

秋期における網もち病の発生状況は翌年の一番茶収量に大きく影響を及ぼす。前年の網もち病発生程度が中程度以下の場合、一番茶収量は600kg/10a 以上確保できたが、前年甚発生であった‘深刈り—8月上旬整枝—無防除区’では大幅に減収し、261kg/10a となった（表2、写真2）。



写真2 網もち病甚発生翌年の一番茶新芽
(2021年 4月 6日撮影)

4. おわりに

「あさのか」の栽培において有機栽培など薬剤防除ができない場合、このような整せん枝方法を用いることで網もち病の発生を中程度まで抑制できる。しかし、二番茶後に深刈り、8月上旬に再生芽の整枝を行い、網もち病の感染時期に新芽が生育する場合は、銅水和剤による防除が必須である。

〒899-3401 鹿児島県南さつ市金峰町大野2200

(わきの さおり, あかがわ ひろふみ,
うちむら こうじ)